



〔秋田市観光クチコミ大使〕

元・三菱マテリアル電子化成株式会社 取締役社長 小林 慎一郎氏

秋田の地勢・風土の 魅力と可能性

昭和45年に入社して、秋田が最初の赴任地であった。寝台特急あけぼの号に乗り、当時は奥羽本線経由であったので、目が覚めたのは、湯沢の辺りであった。横手、大曲を過ぎ、朝靄の美しい風景に感動した。秋田駅では人事担当者に迎えられ、大いに奮い立って製錬所の門をくぐったものである。生れて初めて、先祖伝来の東京を離れての生活であったが、すべてが新鮮で、周りの人情も厚く、不安はなかった。日本で産出される鉱物資源がすべて揃っているのは秋田県と北海道だけと聞き、資源素材産業の勤務地に誇りを持ったものである。

その後、多くの場所に勤務したが、その間、折々に東北肥料社に係る仕事に携わり、足掛け10年、秋田にも勤務した。最初の勤務地秋田には、ことさら思い入れがあり、最後のお勤めも秋田を希望して、その願いが叶い、秋田が本社の三菱マテリアル電子化成社が最後の奉職場所となった。今や、秋田で製造される化学薬品、金属材料などの多くの材料が、何らかの形で半導体をはじめ、精密機器、輸送機器等の先端産業の素材、部材となっており、三菱マテリアル電子化成社も基幹材料のフッ酸、シリコンなどの素材を加工し、中には世界でオンリーワン・ナンバーワンの機能材料も製造して、秋田から世界に提供している。鉱物資源の採掘、肥料や地金を製造する時代は過ぎ去ったが、土地、ユーティリティ等インフラと優れた素養を持つ秋田の人材を生かして、事業展開を図ることにより、製造業に携わる雇用の確保は、最盛期にも増して可能となっている。

先端材料の物流に当たっては、秋田市は港湾、空港、新幹線の駅、高速道路の出入口の四種の神器をすべて備えた数少ない都市であり、そのメリットを大いに活かせる素地を持っている。都市鉱山の資源リサイクルを担う同和鉱業社の貨物輸送も、羽越本線経由が重要なルートとなっている。高度精密加工品の飛行機輸送も問題ない。しかし、物心両面

で、秋田から東京を向くのではなく、東京を秋田に向かせる工夫が肝要と感じる。更に言えば、日本海側である利点を活用して、世界を秋田に向かせることも可能である。既に、県・市・商工会議所を挙げて取り組んでおられるが、これからの21世紀の世界情勢を見れば、ロシア、中国ルートに価値があることは明らかである。

ところで、現在、私は一般社団法人ディレクトフォースに加わり、ボランティアで小中学生を対象に理科実験の出前授業を行っている。この法人



子どもたちを対象とした
理科実験出前授業を実施

は企業、官公庁、各種団体で経営に携わったメンバーで構成され、現役時代の経験を生かして、中小企業、ベンチャー企業の経営指南、高校、大学での産業構造の講義等を通して、シニアとしての社会貢献を志している。特に、理科実験グループは、首都圏ばかりでなく、東日本大震災の被災地、離島などにも出向いている。理科が好きになり、将来、日本を支える技術者、科学者が一人でも多く育つことを期待している。秋田の子どもは学力、体力日本一であり、大いに期待している。仲間とともに、秋田に出向いて理科実験出前授業を行えば幸いである。

■略歴

昭和22年	東京都港区生まれ
昭和45年	東京大学工学部 卒業
同年	三菱金属鉱業株式会社入社 秋田製錬所配属 (現 三菱マテリアル株式会社)
平成20年	同社執行役員シリコン事業部長
平成22年	三菱マテリアル電子化成株式会社 取締役社長
現在	一般社団法人ディレクトフォース アカデミー事業部長